



2024年6月4日

各 位

会社名 中央発條株式会社
コード番号 5992 東証スタンダード・名証プレミア
代表者 代表取締役社長 小出 健太
問合せ先 総合企画部長 藤田 誠一
T E L 0 5 2 - 6 2 4 - 8 5 5 0

中長期経営計画のアップデートに関するお知らせ

当社は、2024年5月31日開催の取締役会において、2023年5月31日付で公表した2023年度から2027年度までの「中長期経営計画」に関し、内容をアップデートすることを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 中長期経営計画のアップデート理由

中長期経営計画の初年度である2023年度において、国内を中心とした堅調な需要による生産回復により主要取引先の生産台数が増加したこと、また、インフレ影響の販価反映への取り組み強化に努めたことにより、売上高は連結ベースで過去最高の1,009億円となり、当初の2027年度売上高目標である1,000億円を達成いたしました。

今後は中長期経営計画にて策定した各事業戦略を着実に進展させていくことにより、売上高と利益の増加を見込み、売上高目標を1,100億円に、営業利益を55億円にそれぞれ上方修正いたします。

なお、詳細につきましては、下記当社HPに掲載いたします「中長期経営計画のアップデートについて」をご覧ください。(URL : <https://www.chk.kk.co.jp>)

2. 中長期経営計画アップデートにおける主要目標の見直し

<2027年度(2028年3月期)>

	当初 財務数値目標 2023年5月31日公表	修正 財務数値目標 2024年6月4日公表
連結売上高	1,000億円以上	1,100億円
営業利益	50億円	55億円
営業利益率	5%	5%
ROE	5%以上	5%以上

以上

(注) 本資料に記載されている内容は、現時点で入手可能な情報に基づき作成されたものであり、不確実性を含んでおります。実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。

2023~2027
中長期経営計画
アップデート

2024年6月4日
中央発條株式会社

1

2023年度の振り返りと主要目標の見直し

2

各事業戦略の進捗状況

3

財務戦略

4

サステナビリティ経営

Agenda

1

2023年度の振り返りと主要目標の見直し

2

各事業戦略の進捗状況

3

財務戦略

4

サステナビリティ経営

Agenda

2023年度実績について

1.2023年度の振り返りと主要目標の見直し

主要計数実績

中長期経営計画 2023年度～2027年度

		2022年度 実績	2023年度 実績	前期比	2024年度 公表	中長期経営計画 2027年度目標
売上高	億円	927	過去最高 1,009	+82	過去最高 1,030	1,000億円以上
営業利益	億円	3.5	10.7	+7.2	15.0	50億円
営業利益率	%	0.4	1.0	+0.6	1.5	5%
経常利益	億円	15.7	30.9	+15.2	20.0	—
親株主に帰属する 当期純利益	億円	4.8	19.9	+15.1	12.0	—
ROE	%	0.7	2.6	+1.9	—	5%以上

2023年10月16日
当社藤岡工場爆発事故

主要取引先の
生産ラインの一部停止

安全・品質
コンプライアンスの徹底

会社方針



主なトピックス

- 主要取引先の自動車生産台数の増加に伴い、過去最高の1,009億円の売上高を計上
- 高付加価値製品の量産開始や適正販価交渉の取組み、グローバルでの原価低減活動により収益力は大きく向上
- 課題となっていた北米拠点は、事業構造の転換に努め通年でも黒字化を果たし業績は大きく改善

【連結】中長期主要目標 2027年度（2028年3月期）

		当初目標	今回修正目標	
売上高	億円	1,000億円以上	1,100億円	+100億円
営業利益	億円	50億円	55億円	+5億円
営業利益率	%	5%	5%	-
ROE	%	5%以上	5%以上	-

見直しのポイント

— 中長期経営計画で策定した各事業戦略の着実な進展 —

- 売上高1,000億円は2023年度に既に達成、売上高は100億円増加の1,100億円に上方修正
- 営業利益率5%目標を維持することにより、営業利益額は5億円増加の55億円に上方修正
- ROEは引き続き5%以上を目指す

1

2023年度の振り返りと主要目標の見直し

2

各事業戦略の進捗状況

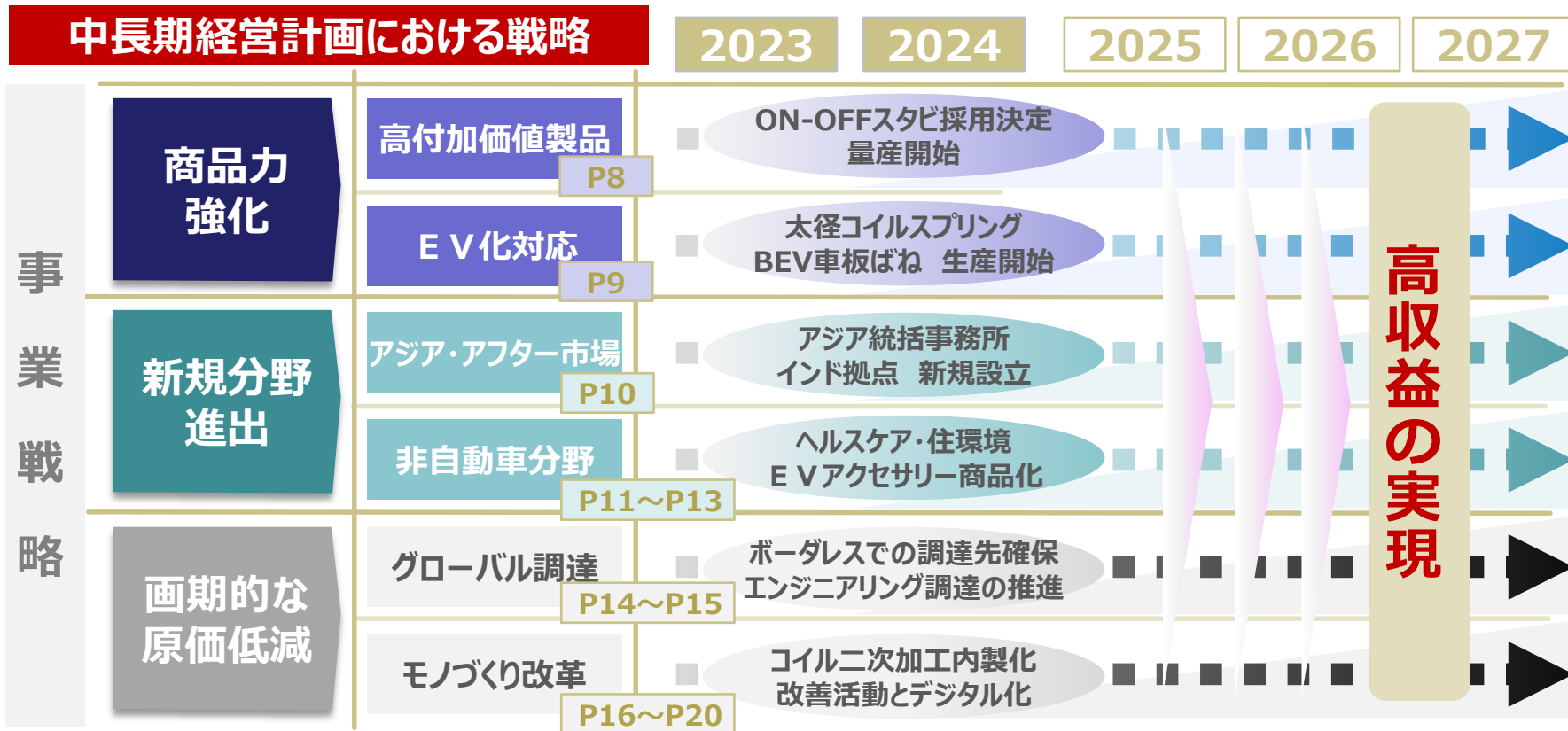
3

財務戦略

4

サステナビリティ経営

Agenda



新型ランドクルーザー“250”シリーズに当社製品搭載

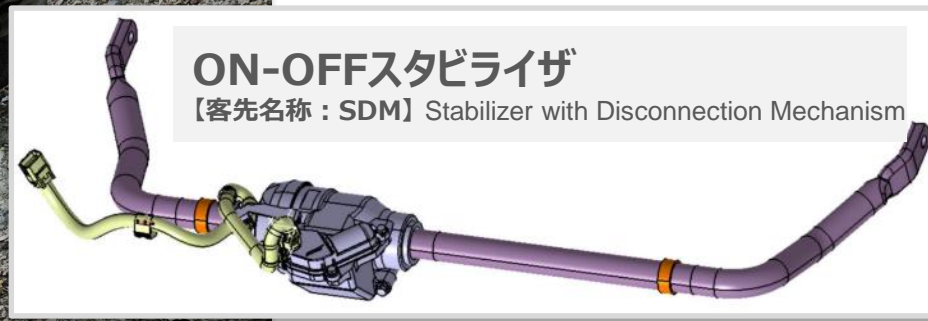
2024年4月18日
トヨタ自動車株式会社より発売開始



写真提供：トヨタ自動車

付加価値

背反するオンロードでの操縦安定性と
オフロードでの走破性と乗り心地を両立



ON-OFFスタビライザ

【客先名称：SDM】 Stabilizer with Disconnection Mechanism

クルマの楽しさや快適性の向上を実現したON-OFFスタビライザが国内外で採用、量産開始

➡ 当社の収益向上に大きく貢献 売れ行き好調を受け更に増産を計画

将来のE V化を見据えた着実な製品開発

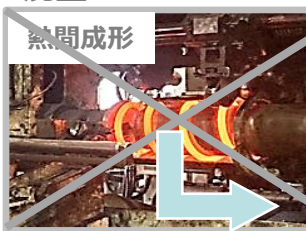
太径コイルスプリング

EV化の進展(車両重量Up)によりコイルスプリングの太径化が必須

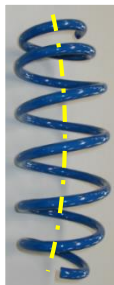
冷間設備能力Upにより太径対応可能対応
線径 ; $\phi 8 \sim 20$

従来の冷間成形では成形不可

廃止



冷間成形



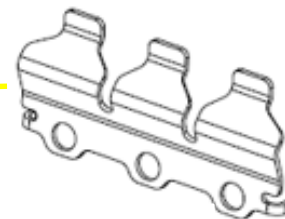
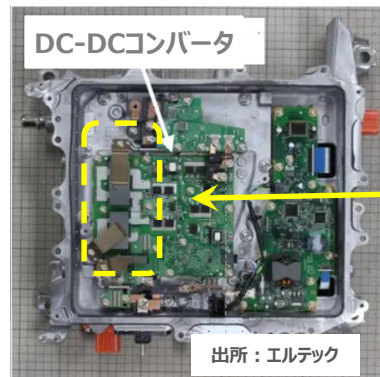
冷間成形のメリット

- ◆CO2排出量削減
- ◆太径SASC(横力制御コイル)化

EV用ユニット板ばね

板ばねの役割

DC-DCコンバータのパワー素子を冷却水路に押し当てて、素子の加熱を防止する



一層の拡販 更に減圧弁などE V製品群拡大へ

アジア統括事務所

グローバルサウス	アジア拠点強化	新規ビジネス	調達力の強化
インドビジネス アフリカビジネス	タイ,インドネシア 台湾	アフター マーケット	域内現調化 ボーダレス調達
パワーバック ドア用ばね			

パワーバックドア用ばね



アジア統括事務所

インド合併会社

2024年6月予定

アフターマーケット

モータースポーツ



運転する楽しさ向上



強化コイルスプリング

レジャー・アウトドア



利便性の向上



テールゲート自動開閉装置



走破性の向上



ON-OFFスタビライザー

商用車

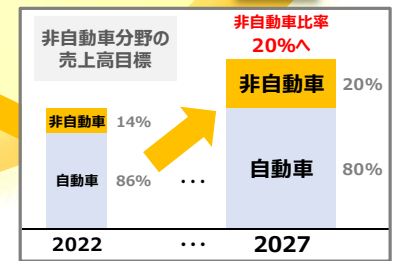


耐久性の向上



強化リーフスプリング

OEM様との連携/販売強化 多様化するユーザーニーズに合わせた魅力ある製品の市場投入



ヘルスケア

商品コンセプト：『だれ☆どこ』シリーズ 【誰もが何処へでも自由に移動できる社会を目指して】

車いすけん引装置 『JINRIKI QUICK3』

2024.4.30
発売開始



段差や悪路もスムーズに移動
緊急避難時にも能力を発揮

瞬間伸縮歩行杖 『あゆみ』

2024.4.26
発売開始



片手で簡単
無段階で長さ調整が可能



EVアクセサリ

営業戦略：日本国内では「Only One」商品/企業 → 更にアジアへ展開

充電ケーブル結束装置 『スパイラール』

新型

2024.5.15
発売開始



【商品力強化・バリエーション拡充】



壁面取付け
3kW・6kW



天吊りタイプ
P社採用決定



キャリーリール
T社採用検討

他業種との
コラボ

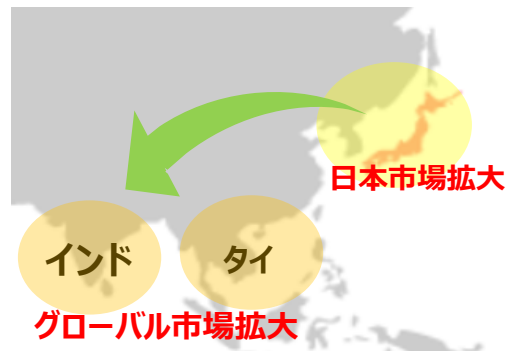


立体駐車場・2段式駐車場へ転用

【市場拡大】

【国内販路拡大】

- ◆ エクステリア
 - ◆ インフラメーカー
 - ◆ 家電量販店
 - ◆ 立体駐車場
- ◆カーメーカー +



日本市場拡大

インド

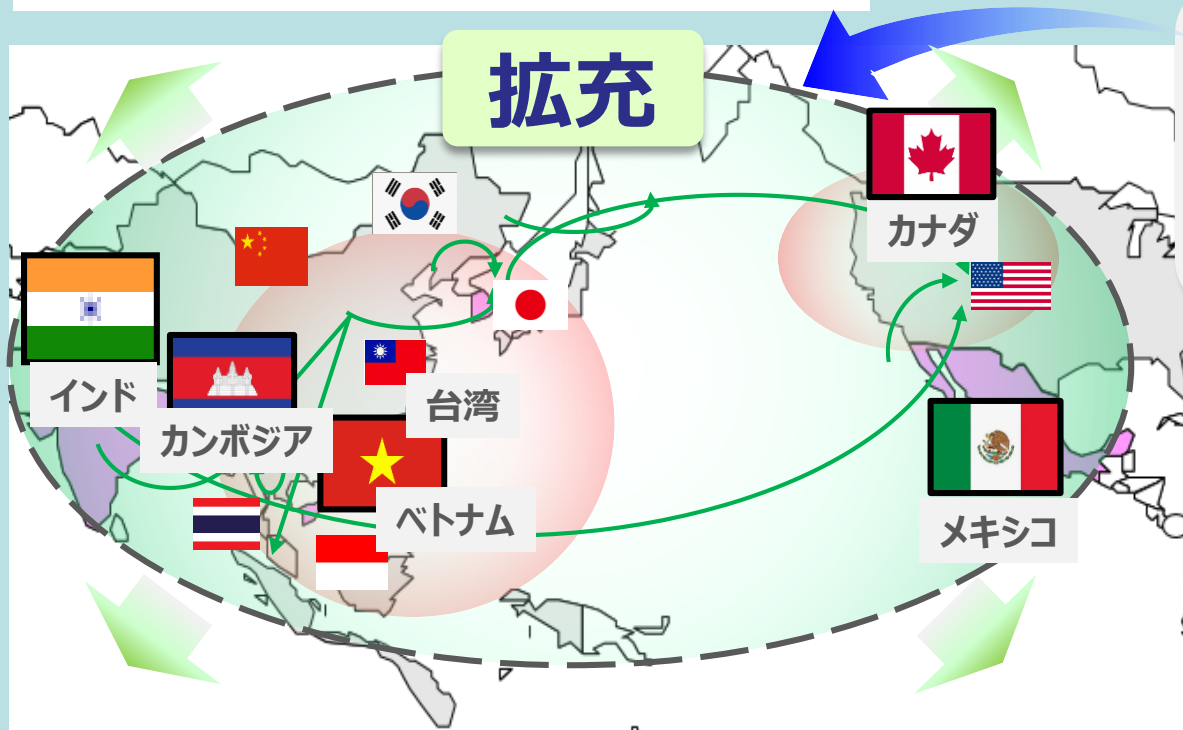
タイ

グローバル市場拡大

3つのポイント

- 好きな長さで使用が可能
- ケーブルが地面と接触しないからケーブルが汚れない、傷まない
- ケーブル収納は自動で巻取り

ボーダレス調達の実進状況



これまでの課題

限定された供給ソース

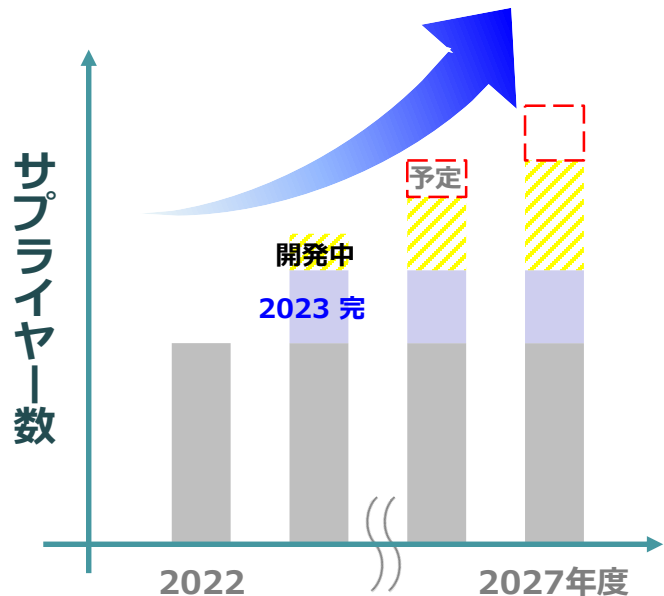
競争の原理

BCP観点

各拠点

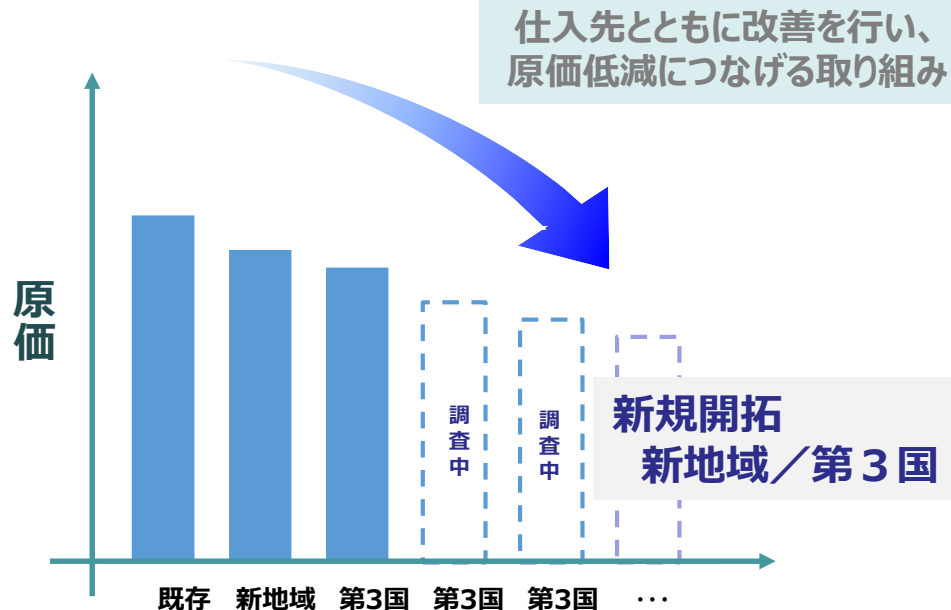
ローカルスタッフとの
協業&自立化

サプライヤーソース拡大



サプライヤー数は2倍へ

エンジニアリング調達



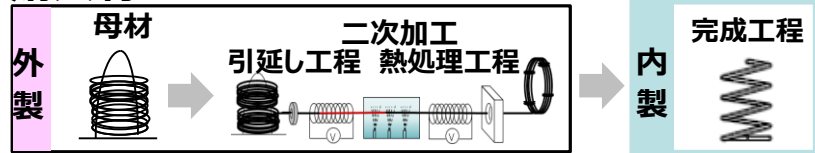
原価低減の実現

画期的な原価低減の取り組み②

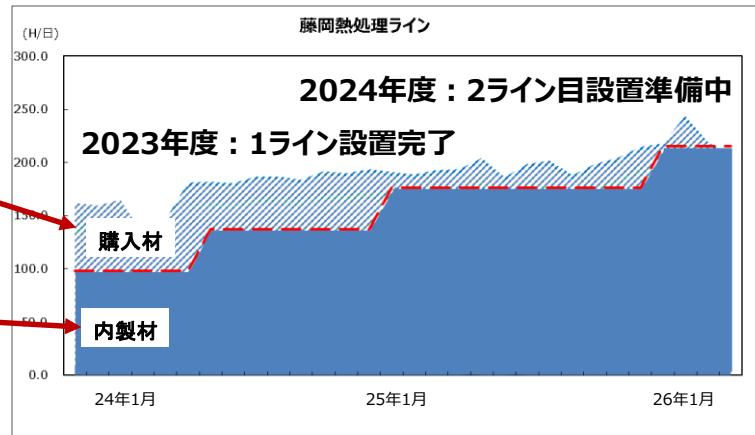
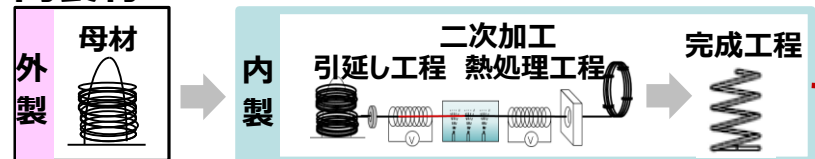
コイル材二次加工内製化

2.各事業戦略の進捗状況

購入材



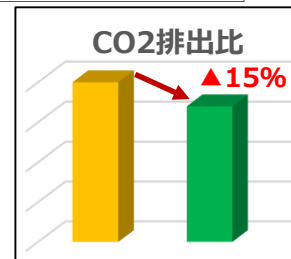
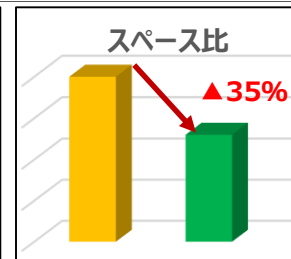
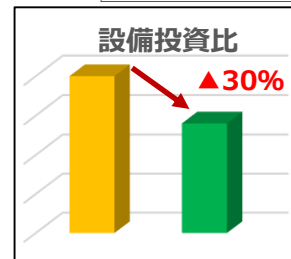
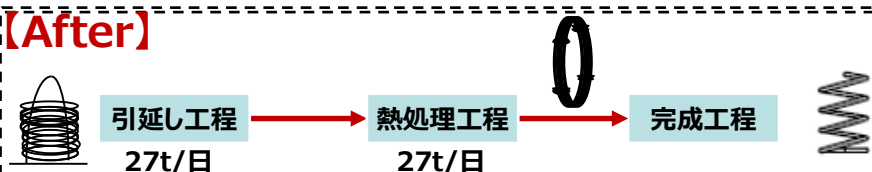
内製材



【Before】



【After】



投資低減、省スペース化により、
最小投資で内製を拡大

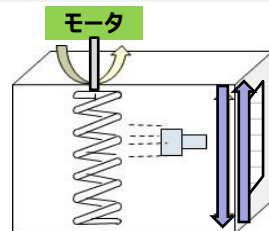
誘導加熱スピードUpにより1ライン化を実現

パワーバックドア用ばね

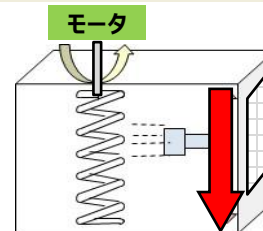


塗装工程

塗装スプレー上下往復動作による2回塗り



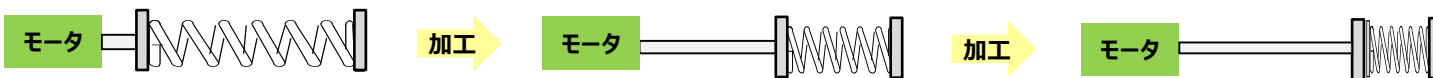
塗装スプレー方向動作による1回塗り



改善

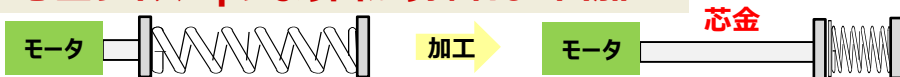
スプリングへたり除去工程

曲がり防止のために2回加工



改善

芯金サイズUpにより曲がり抑制し1回加工

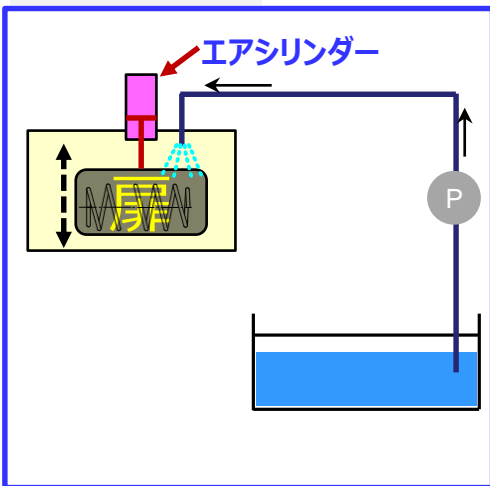


生産性
改善

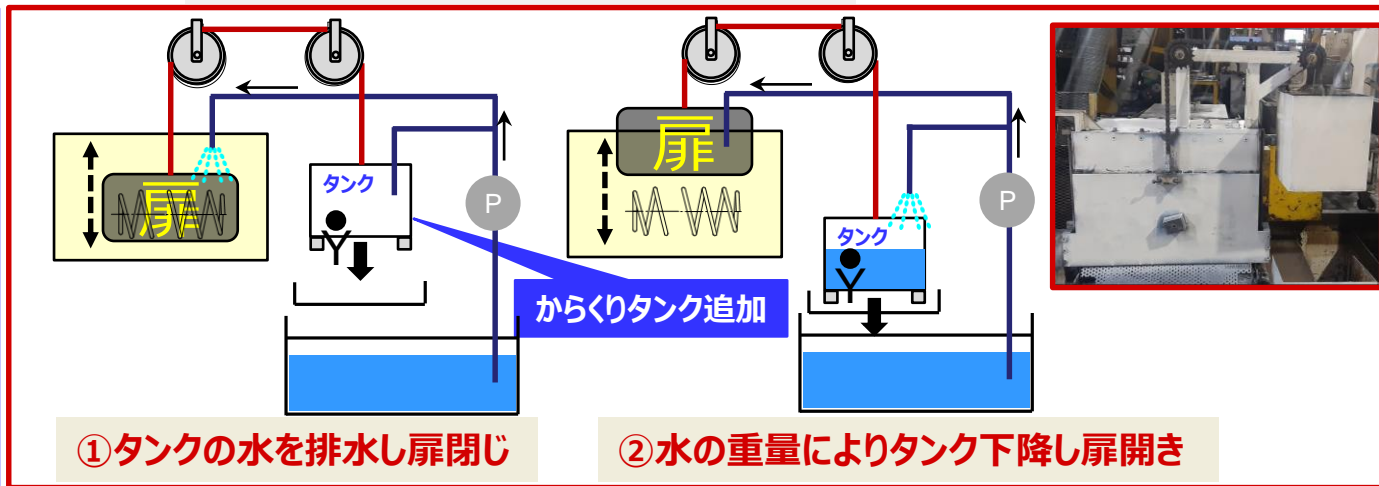
25%

からくり改善事例（湯洗装置シャッター）

Before



After 工程内で使用している水を活用



シリンダー廃止による動力光熱費・CO2削減

2023年度 からくり改善グループ設立
9件の改善実施

製造部門

稼働管理と異常管理

ライン稼働状況の一元管理

日々の原価管理

デイリー総費用管理

在庫・現物の自動管理

日々ライン別の「入と出」の数量管理

リアルタイム、いつでもどこでも状況判断
見える化による現場の改善意欲向上

生産性30%向上

販管部門

業務の無駄どり・即断即決

部署間の垣根を超えた業務改廃
販管部門の工数見える化
データ化による工数内容分析

社内IT人材の内製育成

部門内IT改善人員

販管業務の原単位化
標準化による正味率改善
改善総量とスピード拡大

既存工数40%減

お客様のニーズをスピーディーに製品化

企画
開発

生技
(設備)

製造
量産

統合基幹システム (**経理** **調達** **営業** **人事** システムと同期化)

フロントローディング強化

製品、品質、原価の作りこみ最大化

「モノ」と「情報」の流れの同期化

競争力の飛躍的な強化

1

2023年度の振り返りと主要目標の見直し

2

各事業戦略の進捗状況

3

財務戦略

4

サステナビリティ経営

Agenda

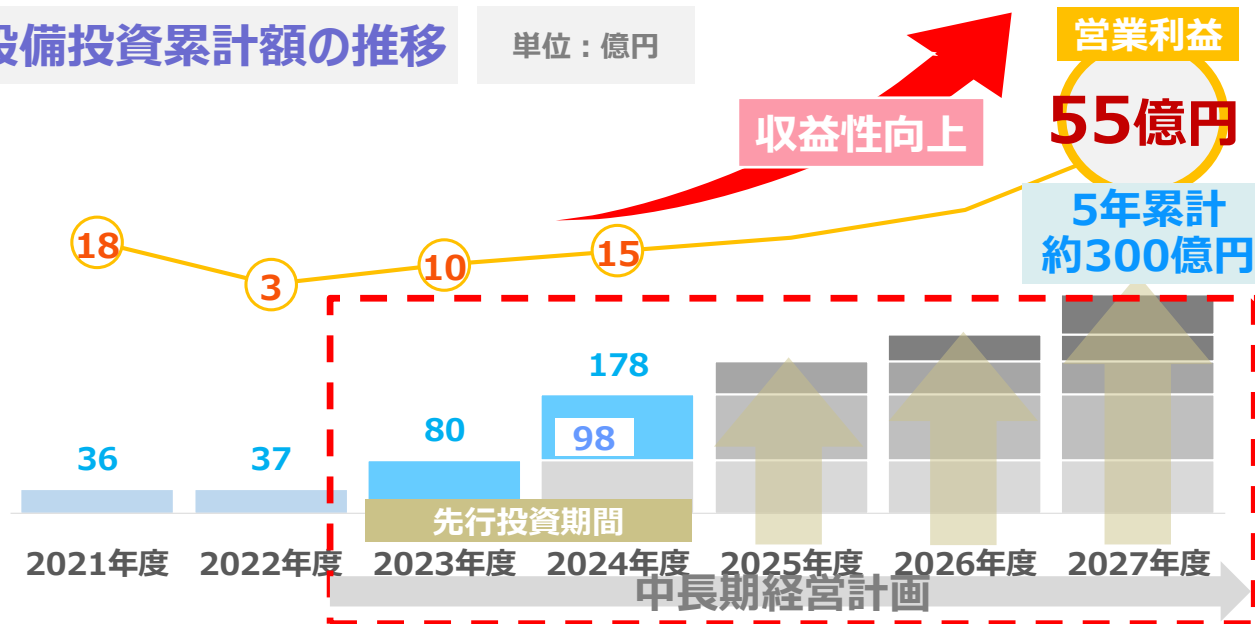
設備投資計画

2027年度までの5年間に約300億円の設備投資を計画

- 収益性向上につながる将来投資を積極的に実施
- 償却費負担が先行するものの、最終年までに投資効果を発揮し営業利益55億円を達成
- 職場改善、SDGsなどの人的投資も大幅に増加

設備投資累計額の推移

単位：億円



設備投資計画 内容

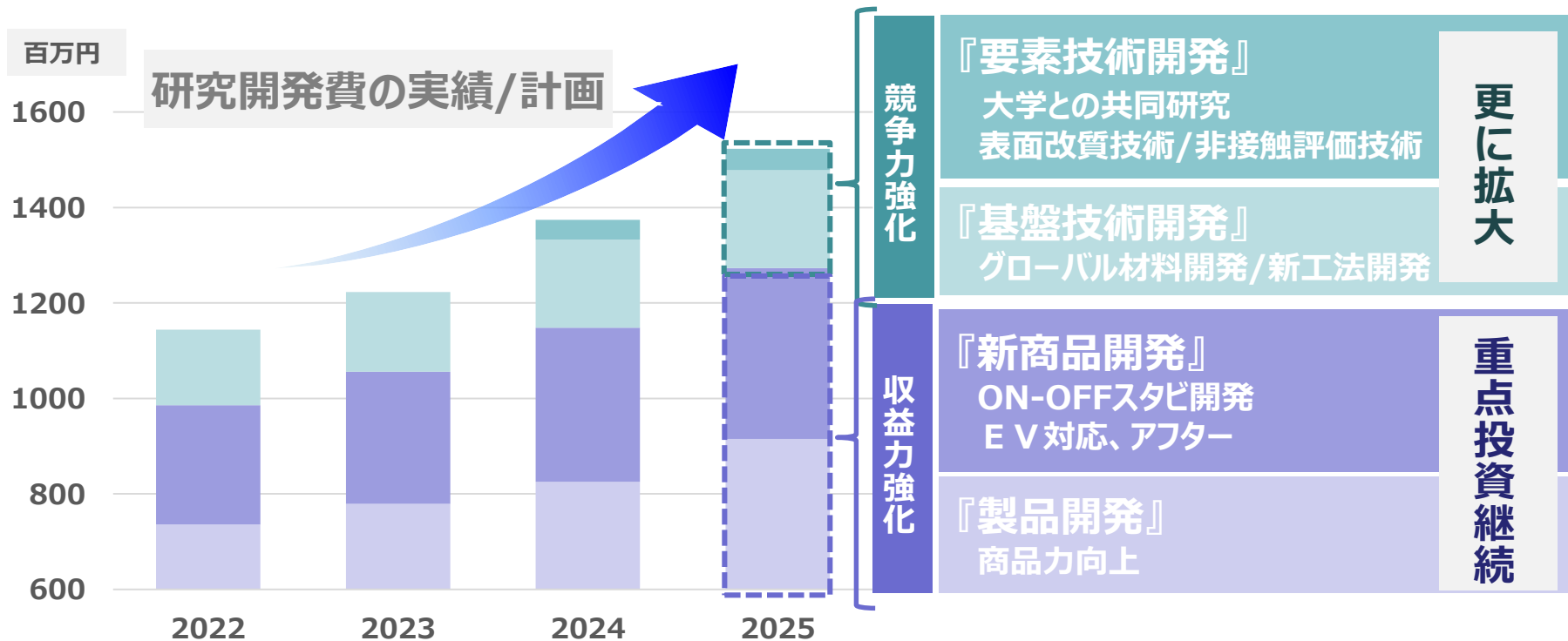
(単位：億円) 実績 実績 計画

区分	2022年度	2023年度	2024年度
生産能力増	15	30	30
商品力強化	12	25	25
原価低減	8	15	30
人的・SDGs	2	10	13
計	37	80	98

将来の売上増につながる投資

研究開発計画

新たな価値創造と企業価値向上のため、将来に向けたR & Dを積極的に拡大



2023～2027年度：積極投資による収益性向上でキャッシュフロー創出

キャッシュイン

事業戦略
の着実な
進展

収益性向上による
キャッシュフロー創出

- 現預金
- 投資有価証券
- 資本提携
- 金融機関からの調達

500億円

営業キャッシュフロー

商品力強化

新規分野進出

画期的な原価低減

現預金/資産効率

資金調達

500億円

キャッシュアウト

積極的な将来投資

設備投資

研究開発

人的投資

戦略投資

株主還元

将来を
見据えた
人的/物的
集中投資

- M&A/業務提携

- 配当性向30%以上
- 自己株式取得

1

2023年度の振り返りと主要目標の見直し

2

各事業戦略の進捗状況

3

財務戦略

4

サステナビリティ経営

Agenda



中央発條グループは企業理念である
「創る技術」を社会に活かす

のもとに環境、社会に配慮した
「モノづくり」を進めることでステーク
ホルダーの皆様の信頼向上と地域を
含めた社会への貢献を目指します。



マテリアリティ(重要課題)として特定したESGと事業活動の4項のテーマを決定

事業活動

「創る技術」で地球環境と社会に貢献 革新的モノづくりによる新たな価値共創

- コア技術を活かした新事業の創出
- 脱炭素社会の実現
- 顧客の安全・安心



技術革新による環境課題の解決

- 気候変動への対応
- カーボンニュートラル
- 廃棄ゼロと資源の有効利用
- 循環型社会への貢献
- CNに貢献できる製品開発



ウェルビーイングの実現を通じた人材の活躍

- エンゲージメント
- ダイバーシティ
- クリエイティブ人財の育成

地域社会への貢献と共生

- サプライチェーンとの共存
- 社会貢献

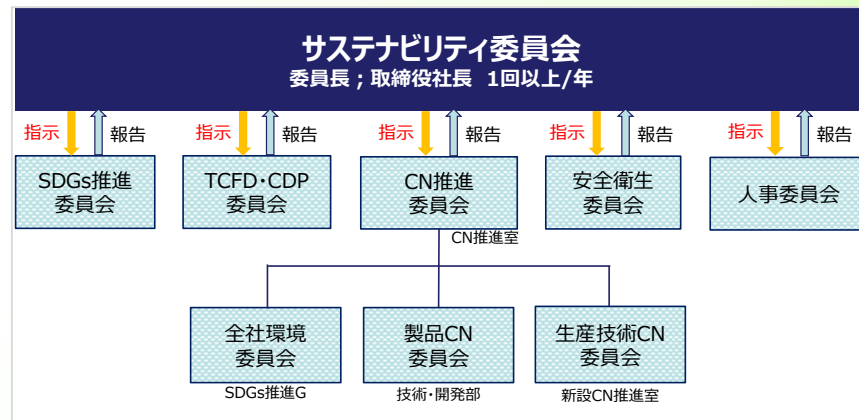
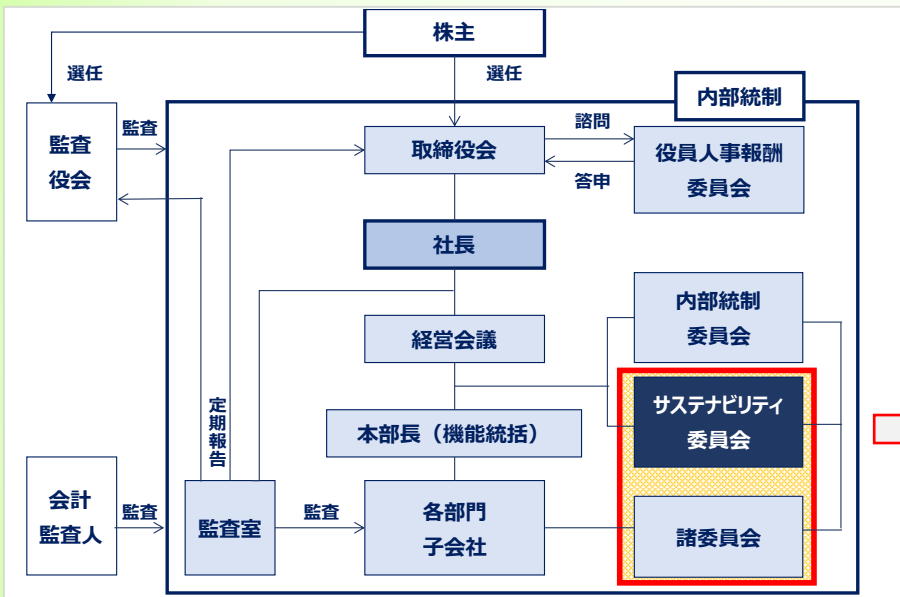


経営基盤の強化

- 安全・品質の維持向上
- コンプライアンスの徹底
- 情報セキュリティの強化



事業を支えるESG活動



もっと、もっとワクワクしたい 明日の笑顔のために

中央発條は

商品力の強化

新分野への進出

画期的な原価低減

サステナビリティ経営

を通じ

クリエイティブカンパニーとして
『100年企業』をめざします

E N D